

令和3年度 東久留米市立 第二小学校

学校評価報告書

学校教育目標	◎考える子 ○仲よくする子 ○じょうぶな子	教育ビジョン	【目指す学校像】 ○児童が登校を楽しみにする学校 ○教職員がそれぞれの立場でよさを発揮して活躍する学校 ○保護者や地域に信頼され応援していただける学校
			【目指す児童・生徒像】 ○自ら考え判断し解決する子 ○思いやりややさしさなど人間性豊かな心をもつ子 ○心身の健康・安全に努めねばり強くがんばる子
			【目指す教師像】 ○児童に愛情をもって専門性を発揮する教師 ○日々研修に努め組織的に協力する教師 ○全体の奉仕者としての服務規律を重んじる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	(成果)・校内研究の取組により、研究に対し前向きな教員が多く、専科も含めた全教員が研究授業を学んでいこうというスタンスができています。 ・特別活動での取組の土台ができており、子供たちの主体性を育てていこうという雰囲気がある。 ・コロナ禍でZOOMを活用してきているので、今年度も朝会、集会、運動会開閉会式など多くの場面で活用できている。 (課題)・学力は全体的に高い傾向にあるが、反面基礎的な部分に課題のある児童も少なからずいる。		

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和5年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	特別の教科道徳及び講話等でいじめが起きにくい校風を育むと同時に、いじめ防止対策基本方針に則り、解決を図る。	定期的ないじめ防止に関わる道徳の授業を実施し、年3回のアンケート、SC面接により早期発見・解決を図る。	①いじめに関わる授業を学期1回行う。 ②児童の様子にアンテナを高くはる。 ③年3回アンケートを行い、早期対応する。	発見したいじめの年度末の解消率 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	授業でいじめについて真摯に取り上げ、アンケートなどの活用から早期の防止対策をしていると思う。	引き続き、学期1回ごとのいじめ防止に関わる特別の教科道徳の題材において、心の耕しと、全校での人権に関わる児童会活動を実施し、いじめの未然防止を図る。また、学期ごとの生活アンケートでアンテナを高くし、組織的に早期発見・早期解決を目指す。
2	I 健全育成	特別支援教育の充実	教育相談体制の充実	個別に支援の必要な児童を取りこぼさず、適切な就学に結び付けていく。	特別に支援の必要な児童のために、校内委員会等で支援レベルを明らかにし、早期に手だてを打っていく。	月1回の校内委員会SC、巡回教員、専門員、コーディネーターとの連携	(保護者アンケート)特別支援教室専門員教育についての情報を適切に提供し、支援を要する児童の教育の充実を図っている。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	D	C	教育相談の体制は整っているとと思うが、その情報の発信は十分でない。	月1回の校内委員会、また東京都派遣の臨床心理士とのケース会議、特別支援教室巡回指導教員やSCとの連携により、教育相談体制は実際、充実している。学校側からの情報発信が足りないため、学校通信、ホームページ等で情報発信をしていく。
3	II 学力向上	体験的な活動	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	地域特性を生かした体験活動や外部人材を活用した授業の実践	落合川の環境学習の継続及び新たな東部地域包括センターによる認知症の学習を取り入れる。	1年:図書館読み聞かせ 2年: 3年:落合川環境教育、農家見学 4年:障害者教育 5年:認知症教育 6年:がん教育	(保護者アンケート)地域や外部人材を生かした学習を実施している。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	C	A	学校公開がコロナ禍であり実施できず、難しい運賃だったと思う。保護者への情報発信を増やし、理解を得たい。	学校公開が少なかった分、学校通信、学年通信、学級通信を通じ、地域・外部人材活用の体験学習の様子を情報発信してきたつもりであるが、まだ十分ではなかったため、学校通信等でのさらなる情報発信と学校公開の再開を目指していく。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学意の向上	授業改善に取り組み、分かる授業を目指すとともに、朝学習や家庭学習等で反復させる。	授業改善推進プランのPDCAを図るとともに、ベーシックドリルや朝学習の活用を図る。	計算、漢字など基本的な学習内容の習熟およびベーシックドリルの活用 朝学習の活用	(保護者アンケート)意欲的に学習し、基礎・基本の学力を身に付けている。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	B	A	東京ベーシックドリルの活用は良いと思う。基礎は反復が必須であり、子供たちの頑張りを表やシールで目に見える形で進めると良いと思う。	東京ベーシックドリルは引き続き、朝学習や家庭学習で活用するとともに、学力パワーアップサポーターを授業支援に入れ、算数での基礎・基本の力を底上げしていく。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	学校におけるICT機器を活用し、学習への有効的な効果を発揮させる。	タブレット端末の全教員による組織的な実践活用、活用場面の拡大、校務の効率化	①スクリーンメニューの活用 ②カメラとしての活用 ③プレゼン活用 ④学習ログとしての活用	(児童アンケート)タブレットを使って学習に役立った A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	コロナ禍もあり、積極的にオンライン、タブレットなどを活用し、学習へとつなげていると思う。	学年の発達段階に合わせて、ICT機器の活用を工夫し、学習に役立てると同時に、今後も学級閉鎖等の緊急時に家庭へ持ち帰り、活用できるようにする。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	学校図書館の活用と充実	司書、司書教諭、図書委員会による学校図書館活用と読書に親しむ習慣の育成	読書旬間での児童の読書意欲の向上の工夫と図書活用の時間の保障を図る。	①読書旬間や司書によるブックトーク ②学校図書助成事業による本の充実 ③朝の図書活用による国語のモジュール学習	(保護者アンケート)朝の読書タイム、読書旬間、読み聞かせ等を通して読書に親しむ態度が育っている A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	C	A	図書館をもっと活用したい。読書量を増やすような楽しむ仕掛けがあるといい。	引き続き、市図書館協力による読み聞かせ、また滝山お話の会による読み聞かせを継続する。また、図書部計画の担任だけでなく専科も含めた全教員での読み聞かせに取り組み、児童の興味関心をもたせていく。
7	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	人権教育の推進	人権行動指針に基づき、教師の人権感覚を磨くとともに、思いやりややさしさなど人間性豊かな心を育む。	全教育活動を通して人権教育を行う。特に特別の教科道徳、特別活動を両輪として確固たる人権感覚を身に付けさせる。	①人権週間での作品 ②児童会主催の人権集会 ③縦割り交流活動 ④人権教育計画に基づいた特別の教科道徳での指導	(児童アンケート)友達に思いやりをもって、なかよく過ごすことができた。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	人権教育は集会、活動、作品など、様々な方法で取り組んでおり、大変良いと思う。	人権行動指針に基づき、人権教育プログラムを活用し、教員の人権感覚をさらに磨くとともに、校長講話、特別の教科道徳、また日常の教育活動を通して、児童の人権意識を高めていく。
8	I 健全育成	生涯にわたって育む健やかな体づくり	心身の健康の保持増進に関する指導の充実	児童の心身の健康の保持増進に対する意識向上を図るとともに、体力の向上を図る。	自己の心身について理解し健康に関心をもつと同時に、すすんで外あそびや体力づくりを励行する。	①体育朝会や体力アップウィークの設定 ②6年薬物乱用防止教室、5年薬の使い方・認知症、3・6年口腔衛生指導	(保護者アンケート)子供の体力を向上させる取組(体育朝会・縄跳び・外遊びなど)を積極的にやっている。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	B	A	児童の体力向上のため、縄跳び集会など、これからも継続的に進めてほしい。	今年度はオミクロン株の流行で、児童への感染率が上がったため、縄跳び集会は大縄を個人縄跳びに代え、また持久走のための体力アップウィークの取組も、マスクを外しての持久走を中止し、体育の授業の中での体力アップを工夫した。次年度は、コロナの様子を見ながら、通常の一校一取組を実施していく。
9	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	児童が分かる・楽しい授業を目指して、教員の指導力向上を図る。	校内研究(理科、生活科、専科教科)を充実させる。互いの授業を参観し、切磋琢磨する。	①児童自ら課題を発見する授業の構築 ②全員年1回の研究授業を行い全教員で参観し学ぶ。	(児童アンケート)授業は、よく分かる。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	授業に関しては、コロナ禍で難しい中、先生方は大変良く頑張られていると思う。授業の工夫もされており、今後もこのまま頑張ってもらいたい。	校内研究で取り上げる教科・領域等はこれから決定するが、児童の主体的・対話的で深い学びを目指して、授業の構築の仕方を全教員で学んでいく。
10	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	4×4の取組	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、理念等について正しく理解し、我が国や郷土を愛する心を育む。	年間指導計画に基づき、35時間の学習を行い、4×4の取組を充実させる。	①「4つのアクション」のうち、学ぶ(知る)、する(体験・交流)に重点を置く。 ②各学年ごとの文化プログラム学校連携事業の実施	(児童アンケート)オリパラの学習が楽しい。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	B	A	パラリンピックからの障害者スポーツへの理解がもっと広がるとうれしい。伝統文化理解教育については、たくさん取り組めたいと思う。	学校レガシー2020として、日本の伝統文化理解教育の推進や、CAJとの交流による国際理解教育、加えて落合川などの地域の環境教育を推進していく。
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	ライフ・ワーク・バランスに対する個人の満足度を80%以上にさせる。	教員自身が「働き方改革」を意識できるようにする。	①長期休業中の定時退庁の徹底 ②月の超過勤務が45時間以内	自己のライフ・ワーク・バランスに満足・おおむね満足している教員 A:90%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:50%未満	C	B	A	コロナ禍で授業準備が大変になったり、夏休み、冬休みまで準備が必要になったりと、教員の負担がどうしても大きくなってしまった。これまでの経験をうまく形にしていき、今後コロナのような中でも、働き方が少しでも良くなるように、その方法の蓄積、ノウハウができてほしい。	次年度は校務支援システム、タブレット端末活用法の研修など、落ち着いたころなので、定時退勤の日の設定や長期休業中の定時退勤の徹底を図り、月の平均超過勤務時間を減らしていく工夫をする。